9/26
朝日

「戦争法廃止」看板を掲げる

無職　（島根県　71）

安全保障法制の参院特別委での強行採決に悔しくて体の震えが止まらなかった。自然と涙があふれ出た。1945年3月、父は硫黄島で戦死。私を含め4人の子を母は苦労して育てた。その経験から、高校の時は60年安保に参加。今回も、居ても立ってもいられず、法案の参院本会議審議入り前日となった7月26日と、この夏、最大規模の抗議行動であった8月30日に妻と国会前で廃案を訴えた。平和憲法を守らず、他国の戦争に自衛隊が参戦し人を殺し殺されることになってはならないからだ。

成立した9月19日の参院本会議は、自民党議員も公明党議員も誰1人反対しなかった。一部の自民党県議や市議、公明党支持者までもが反対の声をあげていたのに。民意を反映しない議会制民主主義という現実の一方で、全国津々浦々で個人の意思によるデモが展開される新たな動きも見られた。この国の未来は、国民一人一人にかかっている。「平和憲法の破壊を許さない」という行動から始めよう。

私は、毎月19日を「平和憲法を取り戻す日」として「戦争法廃止」の看板を掲げて街頭に立つなど、長い闘いに踏み出す決意をしている。自分たちで出来ること、1人からでも出来ることを続けていくつもりだ。